

きれい 甲斐

No.28 NOVEMBER 2004

環境パートナーシップやまなしは、県民・事業者・行政のパートナーシップ（協働）のもと、団体間の連携や情報交換の場づくりなどを通じて、自主的な環境保全活動を積極的に展開していくことを目的として様々な活動を行っています。

環境保全に関する活動を積極的に行っている団体、個人のみなさまのご入会をお待ちしています。

環境パートナーシップやまなし

事務局 ● 〒400-8501 山梨県甲府市丸の内1丁目6-1 山梨県循環型社会推進課内
TEL.055-223-1506 FAX.055-223-1507 函 junkan@pref.yamanashi.lg.jp
URL <http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/junkan/60200266375.html>



古紙配合率100%再生紙を使用しています

発行責任者 ● 企画委員長 末木 勝人

こふじ 『子富士の会 富士山クリーン作戦』



子富士の会

「子富士の会」は、中国での沙漠緑化活動「緑の協力隊やまなし甲府隊」に参加した高校生の「山梨でもできることを」というおもしろいきっかけに、「財団法人富士山をきれいにする会」の青少年版として、平成12年に発足しました。発足以来、「富士山クリーン作戦」と題して、毎年富士山五合目周辺の美化活動を行っています。

青少年を中心に活動してきた本会も、回を重ねるごとに参加者の幅が広がり、6回目を迎えた今回は、高校生・大学生などの青少年だけでなく、児童養護施設の子どもたちや社会人、家

族連れなど、総勢70名の参加がありました。「富士山を世界遺産に！」の願いのもと、第1回から数え、延べ400名を超える環境ボランティアの輪が広がっています。

「子富士の会 富士山クリーン作戦」の目的は、富士山美化にとどまりません。活動当日、グループリーダーとして清掃コースの指示や人数の点呼などを行うのは、高校生・大学生の役割です。小学生から70歳代までの幅広い年齢層をまとめるリーダー役という学校生活では味わえない体験を通して、青少年ボランティアの芽が育っています。また、学生をサポートする社会人にとっても、日頃なかなかできない異世代交流の場として新しい連帯が生まれています。

最近では、社会貢献活動の一環として参加する企業もあります。ボランティア活動全般を見てみると、社会人男性の参加率は著しく低いのが現状ですが、プログラムを提供する側としても今回のようにグループや家族、会社単位で参加できる企画を増やし、誰もがボランティア活動に参加しやすい仕組みを作っていくことも大切です。企画提供側と参加側の相互の努力が、公益性の高い活動を生み出しています。

参加者の感想の中に、「こんなボランティア、無くなればいい」という言葉がありました。富士山からゴミが無くなれば、このようなボランティア活動も、必要が無くなることは確かです。しかし、日本一の山「富士山」が「ゴミの山」といわれる所以は、現実に目の前にあるのです。タバコの吸い殻や空き缶、崖下に投げ込まれた粗大ゴミ、それらは全て私たち人間が出したものです。この日、参加者一人ひとりが、ゴミを「捨てる人」の前に「捨てない人」になることを確認し合いました。

日本が誇る富士山は、そんな暗い話題ばかりではありません。活動中に「ご苦労さま、ありがとう。」と声をかけてくれる登山客、私たちの活動の様子を見て、捨てようとしたゴミを持ち帰る観光客など、富士山を愛する方々との心あたたまるコミュニケーションの場面を見ることもできました。

ボランティアとは、出会い・ぬくもり、そしてともに生きる心です。富士山の美化活動を通して、人と人、人と自然とのあたたかい地球家族の関係が、この山梨から育っていくことを目指しながら、「子富士の会 富士山クリーン作戦」はこれからも続きます。



『子富士の会』（事務局）特定非営利活動法人山梨県ボランティア協会
〒400-0031 甲府市丸の内2-35-1 山梨県ボランティア・NPOセンター内
TEL055-224-2941 FAX055-232-4087 URL <http://www.yva.jp/>

「山梨県地球温暖化防止活動推進センター」 に関する報告書をまとめました

ネットワークづくり専門部会

ネットワークづくり専門部会では、本年5月に地球温暖化防止活動推進センター（以下「温暖化防止センター」という。）に関するプロジェクトチームを設置し、山梨県における地球温暖化防止の取り組み推進の拠点となる温暖化防止センターの設置に向けて、他県の先進事例の検討や県内のNPOとの意見交換会などを開催しながら、検討を進めて参りました。今般、これまでの検討内容を報告書としてとりまとめ、この報告書の内容について、山梨県へ提言いたしました。

山梨県地球温暖化防止活動推進センターに関する報告書（骨子）

1. 制度の趣旨

(1) 温暖化防止センターに期待される役割

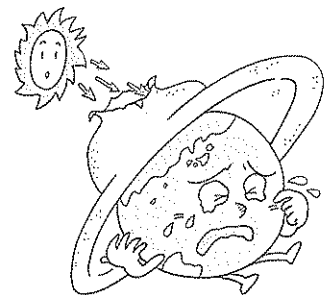
- ・ 温室効果ガスの排出量を抑制するには、県民の日常生活（民生・運輸部門）における取り組みを促進させることが必要（1990-2000年排出量増加率：民生部門業務系42%、廃棄物部門22%、民生部門家庭系20%、運輸部門18%、産業部門6%）
- ・ NPO等が温暖化防止活動を推進していく際の、都道府県レベルでの取り組み推進の拠点となること

(2) 業務範囲

- ・ 県民、事業者、行政が対等に参画し、温暖化防止に係る情報提供、相互に活動の支援を行う場づくり（パートナーシップ）
- ・ 地球温暖化対策の推進に関する法律第11条に規定される事業
啓発活動・広報活動、活動支援、照会相談、調査研究、情報提供 等

(3) 指定法人の限定事項

- ・ 公益法人（財団法人、社団法人）またはNPO法人であること
- ・ 県内に1カ所に限定して、知事が指定すること
- ・ 県内における活動拠点を有すること



2. 他の道府県の指定法人の状況

平成16年7月1日現在、26道府県で指定済み

3. 山梨県地球温暖化防止活動推進センターの考え方

(1) 基本的な考え方

- ・ 県民、NPO、事業者、団体などが、温暖化防止活動に参画・連携することを容易にする環境整備を民間主導で形成すること
- ・ パートナーシップ機能、ネットワーク機能、コーディネート機能を果たすこと

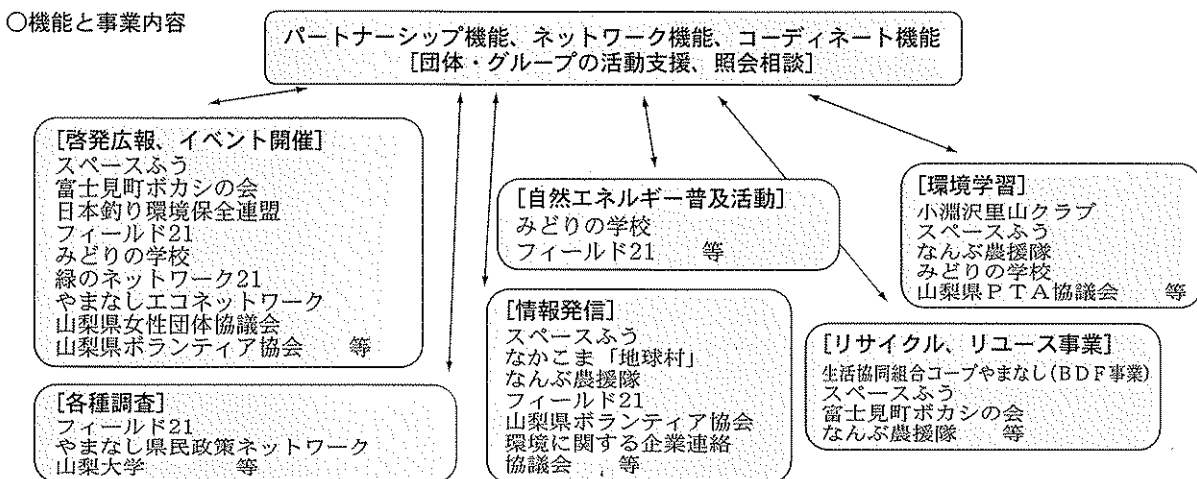
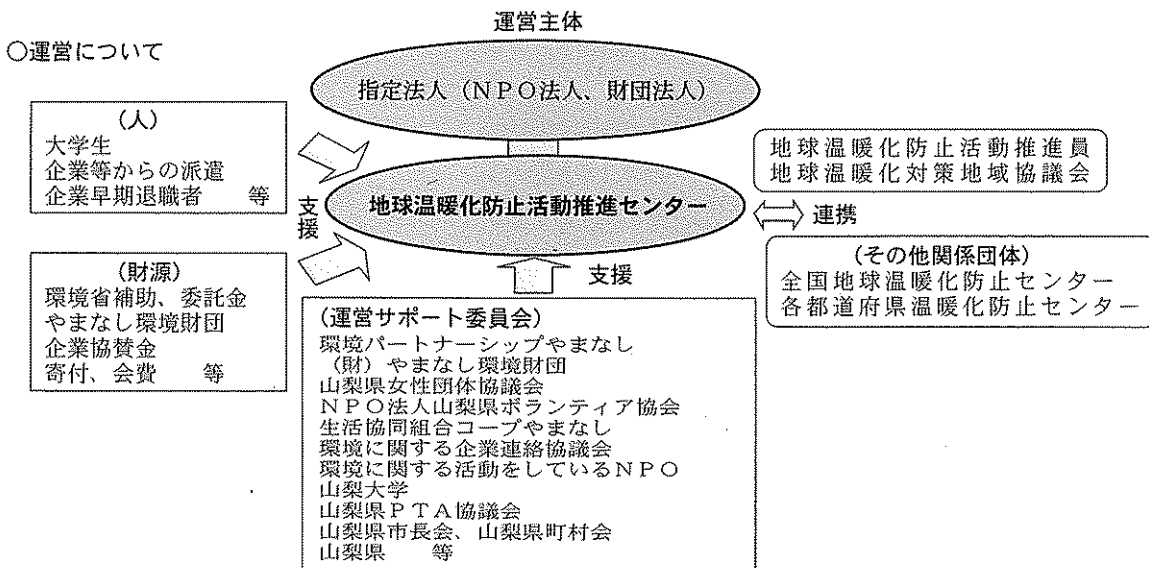
(2) 事業内容

- ・ 情報収集、情報提供などの情報流通の事業
- ・ 県民、事業者、行政の双方向的な交流の場づくりや団体等の活動支援
- ・ 本県の地域特性を活かした事業（太陽光、森林、水、公共交通機関等）

(3) 運営体制

指定法人の活動のみでは限界があるため、さまざまな主体の協力、参画を得て、継続かつ実効性のある運営体制を整備すること（イメージ図参照）

山梨県地球温暖化防止活動推進センター運営体制（イメージ図）



プロジェクトチームメンバー

飯窪さかえ（山梨県女性団体協議会）	塩谷 元由（山梨県市長会）
岡 尚志（NPO法人山梨県ボランティア協会）	片谷 教孝（山梨大学）
田中 明雄（生活協同組合コープやまなし）	玉川 功雄（環境に関する企業連絡協議会）
内藤 範治（山梨県PTA協議会）	山田 勲（山梨県町村会）

詳しくは、環境パートナーシップやまなしのホームページに、報告書が掲載されておりますのでご覧いただくか、事務局までお問い合わせください。

行事予定

★世界のトンボ・セミ展

10月26日（火）～12月25日（土）
日本各地のトンボの他に、普段見ることのない世界各地のトンボとセミ類約350点を展示します。
展示場所：北杜市オオムラサキセンター
入館料：大人400円 小中学生200円
【お問い合わせ先】
北杜市オオムラサキセンター 電話 0551（32）6648

★年末の交通事故防止県民運動

12月1日（水）～12月31日（金）
運動のスローガン
「やめようよ 自分のルールで 走るのは」
飲酒運転を根絶しましょう！

★八ヶ岳自然ふれあいセンター 蜜ろうそく作り

12月23日（木）、25日（土）、26日（日）13:30～15:30
ミツバチが体から出す蜜を使い、オリジナルろうそくを作ります。
対象：家族・一般
定員：なし
参加費：無料
時間前に八ヶ岳自然ふれあいセンターにお越しください。
【お問い合わせ先】
財団法人キープ協会 八ヶ岳自然ふれあいセンター
電話 0551（48）2900

★第28回ボランティア・NPO活動推進月間

平成17年2月1日～2月28日

第6回ライトダウン甲府バレー「星の住める空へ」を終えて

山梨県立科学館 天文担当 跡部 浩一

1 はじめに

ライトダウン甲府バレー実行委員会では、平成11年より「光害のない夜空を取り戻し、美しい星空を子どもたちに贈ろう」を合言葉に、「ライトダウン甲府バレー」の事業に取り組んできました。

運動場の夜間照明や広告塔の照明などで、星の淡い明かりがかき消されてしまう光害（ひかりがい）。星が見えなくなるだけでなく、人間の諸活動や動植物への影響やエネルギーの浪費が問題となることが指摘されています。環境省も平成10年3月に「光害対策ガイドライン～良好な照明環境のために～」を策定するなど、光害を解決するべき環境問題のひとつとして認めています。しかし、一般の光害に対する認識はまだまだ浅く、反対に店舗の長時間営業や建造物のライトアップなど光害の原因は増える一方です。

自然環境の豊かな山梨県でも、甲府盆地を中心に光害によって美しい星空を見るのが難しくなっていました。20年ほど前までは、甲府の街中からでも天の川の淡い光を見ることができたのですが、今では3等星から4等星を見るのがやっとという状況になってしまいました。

こうした光害の実態を広く認識してもらい、星空を含めた身近な環境について目を向けてもらう機会とするために、年に1度、1時間の消灯＝ライトダウンをお願いし、星空を見上げてもらおうというライトダウン甲府バレー。6回目を迎えた今年も、環境パートナーシップやまなし様からのご後援をいただくなど、皆様方のご協力で大きな成果をあげることができました。

2 事業の概要

(1) ライトダウン甲府バレーイベント「ライトダウン星祭り」

10月16日のライトダウン当日に向けて、星空について興味を持ってもらおうと、10月8日～10日の3日間、甲府市中央公民館でイベント「ライトダウン星祭り」を開催しました。9日には台風22号が接近するなどあいにくの天候でしたが、3日間で約200名のみなさんに参加していただくことができました。特に、オール手作りの移動プラネタリウムは、直径3メートルの小さなドームに10名ほどが入って見るもので、皆さんに喜んでご覧いただくことができました。<内容>星空写真展・移動プラネタリウム・手作り望遠鏡教室・まちなか星空観望会など

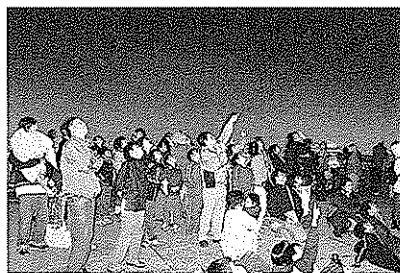


移動プラネタリウム

(2) ライトダウン甲府バレー・星の輝きにふれる集い

10月16日のライトダウン当日、甲府と韭崎の3つのメイン会場と、2つの甲府市内の小学校のサテライト会場で、ライトダウンした甲府盆地の夜空に広がる秋の星空を見る、「星の輝きにふれる集い」を開催しました。当日は、朝から厚い雲が空を覆い、夜の天候が危ぶまれましたが、空が燃えるような真っ赤な夕焼けの後、急速に雲が切れはじめ、ライトダウン開始の午後8時ごろには、雲ひとつない快晴の夜空が広がりました。

8時のカウントダウンと同時に、学校の運動場の夜間照明が消え始め、参加して下さった皆さんから、歓声がわきおこりました。それ以前に消灯をさせていただいたり、もともと点灯していない広告塔などの照明もたくさんあり、普段と比べて確実に夜景が暗くなっているのが見られました。そして、頭上には輝く秋の星空。科学館会場では確認することはできませんでしたが、韭崎会場では天の川を見ることができました。ライトダウンによって普段見ることができない多くの星たちの姿を見ることができたのです。



星の輝きにふれる集い

3 まとめ

消灯の依頼にうかがって、「県立科学館です。」と言って名刺を差し出すと、「今年もライトダウンですか？」と返事をいただけるお店や企業がたくさんありました。6回目を迎えたライトダウン甲府バレーが、多くの皆さんに認められてきているのを感じました。

今後、この運動が10回・20回を数え、甲府といえば「ライトダウンの街」「星がきれいな街」と誰からも思われるような、そんな未来をめざしていきたいと実行委員一同、願っています。「星の住める空」をめざして…。

最後になりましたが、今回のライトダウンにご協力いただいた企業・事業所・公共団体・個人の皆様にお礼を申し上げます。



普段の甲府



ライトダウンした甲府

ライトダウン甲府バレー実行委員会 事務局
山梨県立科学館
〒400-0023 甲府市愛宕町358-1
TEL055-254-8151 FAX055-240-0168

●投稿募集中【投稿要領】

①スペースはA4版程度で、1,200～1,500字の原稿と写真2～3枚です。②団体等の名称、所在地（事務局または事務所等）、連絡先は必ずお書きください。③内容は、活動紹介やPRなど自由ですが、他の団体・個人等の批判は避けてください。④締切は特にありません。⑤投稿は、事務局へお願いします。